

A/r/tographyによるインクルーシブアート教育の実践

—視覚障害児とのアート活動の理論とデザインワークショップ—

2019.10.18(金) 13:00 - 17:00

要・事前申し込み(定員20名)

東京学芸大学 芸術・スポーツ科学系4号館 2階 美術教育演習室

アートが一人ひとりの固有な生と共にあり、人々の多様な生き方を相互に結びつけることができるとすれば、その時、そこにどんな美術教育の実践が生まれるのでしょうか。私たちの人生と共にある、生きた探求的アートの実践である“アートグラフィー(A/r/tography)”をベースに大学院での探求的实践や、視覚に障害のある子どもたちとのアート活動に取り組んでいる中国・杭州師範大学教授のJun Hu(胡俊)博士を招き、視覚障害児とのアート活動から導かれた理論についてお話いただき、実践を構想するワークショップを行います。

写真: 8人の視覚障害児による版画展, 浙江省アートギャラリー, 2017

13:00 開会の挨拶 笠原広一 東京学芸大学准教授(司会)

「いまなぜ、インクルーシブアート教育なのか」

茂木一司 群馬大学教授

13:15 「視覚に障害のある子どもたちとの美術教育実践—アートグラフィーに基づく実践から—」

Dr. Jun Hu (胡俊 博士) 杭州師範大学教授

杭州師範大学美術学系主任, 同大学アートグラフィー(A/r/tography)研究センター所長, 国際美術教育学会(InSEA)理事, 同学会Asia Regional Council(ARC InSEA)代表, アートグラフィーに基づく中国及び東洋と西洋の美術教育比較研究に取り組む。カナダ・コンコルディア大学博士論文提出有資格者。

中国語通訳: 丁佳楠(東京学芸大学大学院教育学研究科), 板倉万里(東京学芸大学教育学部)

14:00 視覚障害児とのアート活動を構想するワークショップ

Dr. Jun Hu (胡俊 博士) (ファシリテーター)

ディスカッション: 「アートグラフィーの教育実践への展開可能性」

Jun Hu, 茂木一司, 池田史志(広島大学准教授), 小松佳代子(長岡造形大学准教授), 笠原広一, 森本謙・Marzieh Mosavarzadeh(ブリティッシュコロンビア大学博士課程・東京学芸大学研究員)

17:00 終了

■主催・申し込み先: 東京学芸大学(美術科教育学分野) 笠原広一研究室 [kasahara\(a\)u-gakugei.ac.jp](mailto:kasahara(a)u-gakugei.ac.jp)

※(a)をアットマークに変えてください。〒184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1 Tel & Fax: 042-329-7610

※本研究は、科研費基盤研究(B) Arts-Based Researchによる芸術を基盤とした探究型学習理論の構築(18H01010)代表: 笠原広一, 基盤研究(B) インクルーシブアート教育論及び視覚障害等のためのメディア教材・カリキュラムの開発(18H01007)代表: 茂木一司, 基盤研究(B) 判断力養成としての美術教育の歴史的・哲学的・実践的研究(18H00622)代表: 小松佳代子, 若手研究 共生社会の実現に向けた美術科教育の交流・共同・接続プログラムの開発(18K13160)代表: 池田史志, SSHRC(890-2017-0006) “Mapping A/r/tography: Transnational storytelling across historical and cultural route of significance”(PI: Rita L. Irwin) との共同開催です。